

2024 年秋学期

# フランス・アラカルト・セミナー

札幌日仏協会よりフランス通の講師を迎えて、様々な角度からフランスの魅力に迫ります。  
1回 1,500円、定員あり（要予約）※日本語で行われます

10月26日（土）16h30-18h00

## フランス第2の都市・リヨンの魅力を探る(1)

情報が溢れ返るパリと異なり、リオンは大都会でありながら、日本人にとってイメージがいまひとつ鮮明ではない。かつて遠藤周作や永井荷風が暮らし、多くの文学作品の舞台となったリオン。ローヌ（le Rhône）という男の川と、ソーヌ（la Saône）という女の川がちょうど合流する地点に、半島のように開けたリオン。いわば2つの川の“子供”として誕生し、絹織物、金融、美食のまちとして発展してきたこのまちの魅力を、映像を使って3回シリーズで紹介する。

講師：加藤利器（札幌日仏協会理事長）

11月8日（金）19h00-20h30 Zoom

## フランス語で読む「やさしい」詩と「むずかしい」詩2編(7)

日本ではもっぱらシャンソン *Tombe la neige* で知られる Salvatore Adamo には恐らくそれ以上に有名な *Inch'Allah* という持ち歌があります（1966年作）。こちらは美しい反戦の歌（詩）でありながら、政治的歴史的な理由から厳しく非難されることもありました。そしてその後その歌詞には修正が加えられ、新たなバージョンが存在します。今回は、なぜ修正が加えられることになったのかを考えながら新旧の詩篇を読み比べます。

講師：高橋純（小樽商科大学名誉教授）

11月15日（金）18h30-20h00

## 定例！秋のフランス語句会

季題は自由です。

講師：江口修（小樽商科大学名誉教授）

11月16日（土）16h30~18h00

## 正義と狂気の間

### 没後百年、アナトール・フランス『神々は渴く』を読む

アナトール フランスは芥川龍之介をはじめ、多くの日本人作家にも愛されましたが、現在はあまり読まれなくなってしまいました。しかし、フランス革命を描く彼の『神々は渴く』は、現代的な示唆に満ちています。この傑作の読解を通じて「正義」と「狂気」との関係について考えてみましょう。

講師：村松正隆（北海道大学大学院文学研究院教授）

札幌アリアンス・フランセーズ TEL：011-261-2771  
札幌市中央区南2条西5丁目10-2 サンワードFビル 2F